

「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」

精神保健看護学での活用

昭和大学保健医療学看護学科

榎田めぐみ



昭和大学
SHOWA University

➤ 昭和大学における「教育」への取り組み

□ 統括教育推進室の設置

目的：昭和大学全体の教育の充実、向上を推進する

・全学合同の教育WSの企画、運営

ビギナーズコース

カリキュラムプランニング

アドバンストコース

各学部が抱える課題の解決を目指した課題解決型のWS

アウトカム基盤型のカリキュラム検討、学部連携教育、など

・学部連携教育の推進

➤ 保健医療学教育学

□ 保健医療学教育推進室

目的：保健医療学部における教育の充実、向上を推進する

（看護学科、理学療法学科、作業療法学科の教育に関わる）

➤ 看護学科におけるカリキュラム検討WGの設置

➤ 精神保健看護学での活用

- 本学科における精神保健看護学のアウトカムの検討

- ⇒ Outcome Based Education

- 『どういう看護師を育てるか』というアウトカムを設定し、その目標を達成できるような教育を設計する。

➤ 精神保健看護学担当の

- 学内教員3名、臨床教員4名のメンバーで検討

- 精神保健看護を実践するために、
自らを道具とした「対象理解」と、「看護援助」の基盤を
身につける。

精神保健看護を実践するために、
自らを道具とした「対象理解」と、「看護援助」の基盤を
身につける。

✦ 自らを道具とするために、自己理解を通し、他者を理解する能力を
身につける。

✦ 自らを道具とした看護援助を実践する能力を身につける。

✧ 自らを道具とするために、自己理解を通じ、他者を理解する能力を身につける。

- ① 広く、人の心を理解する能力
- ② 人のこころの動き、反応を、自己に置き換えることを通じて、理解する能力
- ③ 自己理解を通じて他者を理解することに活かす能力
- ④ 精神に問題を抱えた対象を理解する能力

✧ 自らを道具とした看護援助を実践する能力を身につける。

- ① 対人関係をケアにつなげる能力
- ② 対象を尊重し、身体・心理・社会的な安全を守る能力
 - ②-1: リカバリーを支えるケアを考える能力
 - ②-2: 対象が抱える生きにくさを理解し、ストレングスを活かし問題解決につなげる能力

2020年度 精神保健看護学カリキュラムマップ

精神保健看護学のアウトカム (Outcome Based Education)				精神保健看護を实践するために、自らを道具とした【対象理解】、【看護援助】の基盤を身につける							
				自らを道具とするために、自己理解を通じ【対象を理解する】能力を身につける				自らを道具とした【看護援助を实践する】能力を身につける			
				①広く人の「こころ」を理解する能力 ②人の「こころ」の動き、反応を自己に置き換えることを通じて、理解する能力 ③自己理解を通じて他者を理解することに活かす能力 ④精神に問題を抱えた対象を理解する能力				①対人関係をケアにつなげる能力 ②対象を尊重し、身体・心理・社会的な安全を守る能力 ②-1：リハビリを支えるケアを考える能力 ②-2：生きにくさ、ストレスを対象の問題解決につなげる能力			
履修	科目		一般目標	①	②	③	④	①	②	②-1	②-2
3年 後期	実習	・知識 ・技術 ・態度	精神障害を抱える対象に必要な看護を实践するために、「人」としての理解と対象との関係構築を基盤に自らを道具として最大限に活かした援助に必要な知識、技術、態度を身につける。				◎	◎	◎	◎	◎
3年 通年	方法論Ⅱ	・知識 ・技術	精神保健看護の实践に必要な「対象理解」、「看護援助」の基盤を構築するために、精神に問題を抱えた対象に対する治療や回復の過程、回復を支える看護の関わり、対象の個別理解に基づく援助方法の意味について学ぶ。			◎ ※人の行動と心理	◎	◎	◎	◎	◎
2年 後期	方法論Ⅰ	・知識	精神保健の保持増進および疾病予防と回復の援助に必要な基礎的知識・技術・態度を習得するために、 ①援助的人間関係技法の基本的な考え方、患者～看護師関係を促進するかわり、援助的人間関係の基盤となる「自己理解」、「他者理解」の方法について学ぶ。 ②精神障害者を身内にもつ家族が置かれている状況、家族のあり様を理解するための見方、考え方について学ぶ。 ③人格の成熟と発達について、家族、集団、グループ対自己という観点から理解する。 ④メンタルヘルスと自殺、感情労働としての看護師のメンタルヘルスについて理解する。	◎	◎	○	○ ※発達心理学 ※臨床医学Ⅲ	○	○		
2年 前期	概論Ⅱ	・知識	精神保健看護の対象となる人間理解を深めるために、関係からたこころの発達、人間の感情と行動、こころと身体について理解する。	○	○			○ ※コミュニケーション			
1年 後期	概論Ⅰ	・知識	精神保健看護の対象と場を理解するために、精神医療や看護の歴史、精神障害者の人権と法律、対象理解の方法、対象の病の体験と回復、生活の場と精神保健について学ぶ。	● ※医療心理学 ※心理学	◎ ※人の行動と心理			●	●	●	●

※ 関連ユニット（選択科目含む）

<教授レベル> ●：基礎 ○：中間 ◎：応用

➤ 精神保健看護学概論Ⅰ（１年次 後期）

一般目標：

精神保健看護の対象と場を理解するために、精神医療や看護の歴史、精神障害者の人権と法律、対象理解の方法、病の体験と回復、生活の場と精神保健について学ぶ。

➤ 精神保健看護学概論Ⅱ（２年次 前期）

一般目標：

精神保健看護の対象となる人間理解を深めるために、関係からみたこころの発達、人間の感情と行動、こころと身体について理解する。

➤ 精神保健看護学方法論Ⅰ（2年次 後期）

一般目標：

精神保健の保持増進および疾病予防と回復の援助に必要な基礎的知識・技術・態度を習得するために、

- ①援助的人間関係技法の基本的な考え方、患者－看護師関係を促進するかかわり、援助的人間関係の基盤となる「自己理解」、「他者理解」の方法について学ぶ。
- ②精神障害者を身内にもつ家族が置かれている状況、家族のあり様を理解するための見方、考え方について学ぶ。
- ③人格の成熟と発達について、家族、集団、グループ対自己という観点から理解する。
- ④メンタルヘルスと自殺、感情労働としての看護師のメンタルヘルスについて理解する。

➤ 精神保健看護学方法論Ⅱ（3年次 通年）

一般目標：

精神保健看護の実践に必要な「対象理解」、「看護援助」の基盤を構築するために、精神に問題を抱えた対象に対する治療や回復の過程、回復を支える看護の関わり、対象の個別理解に基づく援助方法の意味について学ぶ。

➤ 精神保健看護学実習（3年次 後期）

一般目標：

精神障害を抱える対象に必要な看護を実践するために、「人」としての理解と対象との関係構築を基盤に自らを道具として最大限に活かした援助に必要な知識、技術、態度を身につける。

- 精神保健看護学としてのアウトカムを決め、
- それに向かってどう積み上げるのかを踏まえたカリキュラムの検討
 - ・学習内容、学習目標の決定
 - ・順序性や学習方略の検討
- パフォーマンスの評価
 - ・思考力、判断力、表現力
 - ⇒ 精神保健看護学実習での学び
 - ⇒ 精神保健看護学のまとめ（体験の意味づけ）
- コアコンピテンシーとの整合性の検討



昭和大学
SHOWA University